

研修会報告レポート③

事業名：和歌山市民間保育協会 職員研修会

No.01

開催日時	令和4年2月8日（火曜日）14：00～16：00
研修名	令和3年度（第3回）オンライン学習研修会
開催場所	オンライン研修会（配信本部／(有)ビッグウッド集会場）
出席者	<p>■講師；馬場耕一郎 先生（東京よりオンライン出演）監修者講演 米倉れい子 先生（東京よりオンライン出演）基調講演</p> <p>■参加者；民間保育協会、公立保育所含む 計42名／園</p> <p>■事務局；和歌山市民間保育協会職員研修部（冨森先生、大林先生）、幼年機構 飯田</p>
研修テーマ	地域の特性を活かした保育の運用と地域連携について
【研修概要】	<p>1. 事務局からの報告等</p> <p>○開会の挨拶（職員研修部 冨森部長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のためオンラインで開催する旨の説明 ・基調講演「食育を通じた子育て支援」米倉れい子先生のご紹介 ・監修講演「袋栽培活動報告レポート」馬場耕一郎先生のご紹介 <div style="text-align: right;"></div> <p>○本日の進行等について（幼年教育・子育て支援推進機構 飯田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前半は基調講演として、米倉れい子先生をお招きし「保育現場から考える「食」を通じた子育て支援」について講演して頂く ・後半は各園から提出された「袋栽培」の実践報告レポートについて馬場先生の方から講評とご指導を頂く ・最後に馬場先生の方から「こども家庭庁」と「処遇改善」について、最新の情報とアドバイスを頂く <div style="text-align: right;"></div> <p>2. 【基調講演】</p> <p style="padding-left: 20px;">米倉れい子先生 （食 STORY 代表／元厚労省・内閣府・農水省 栄養指導専門員） 「保育現場から考える「食」を通じた子育て支援」 （別添「レジュメ」参照）</p> <p>○はじめに</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「これまで」どのような「食を通じた子育て支援」を計画・実践してきたか？ <p>○食にまつわる最近の話題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「第4次食育推進基本計画」の重点課題と変更箇所（目標）について ・同上においても「SDGs」の観点から相互に連携して総合的に推進する <p>○「子どもたちに対するこれからの「食」を通じた子育て支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五感を刺激する食育 ・子どもの食事（離乳食含む）について困っていること ・皆さんが知りたい、残したい郷土料理とは？ 「うちの郷土料理」（農林水産省）和歌山編「別添」参照 「食文化のポータルサイト」（農林水産省） <p>○米倉先生と馬場先生のディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山市の本研修では、既に「第4次食育推進基本計画」の活動となっている ・JAの「袋栽培」は栽培から活動を広げて家庭に繋がって循環しているので、まさにSDGsの取り組みにもなっている

研修会報告レポート③

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.02

開催日時	令和4年2月8日（火曜日）14：00～16：00
研修名	令和3年度（第3回）オンライン学習研修会
開催場所	オンライン研修会（配信本部／(有)ビッグウッド集会場）
出席者	<p>■講師：馬場耕一郎先生（東京よりオンライン出演）監修者講演 米倉れい子先生（東京よりオンライン出演）基調講演</p> <p>■参加者：民間保育協会、公立保育所含む 計42名／園</p> <p>■事務局：和歌山市民間保育協会職員研修部（冨森先生、大林先生）、幼年機構 飯田</p>
研修テーマ	地域の特性を活かした保育の運用と地域連携について
【研修概要】	<p>3. 【監修者講演】 馬場耕一郎先生 （内閣府子ども・子育て本部 上席政策調査員） 「袋栽培活動 報告レポートの講評」（別添「資料」参照）</p> <p>○報告レポートから</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ袋栽培活動に取り組んでいてもプロセスや結果、先生と子どもたちの気づきは様々 ・袋栽培の活動で最も大切なことはそれが子どもたちの五感を刺激できることである ・種から野菜を栽培して収穫しその野菜を食して味わうこのプロセスの中に子どもたちの学びの場面がたくさん含まれている ・子どもたちが抱いていたイメージと実物の違いに気づいている様子がたけなわ記録されており、こうした感想は実物を手にして初めて分かったことでイメージと現実のギャップを埋めることは子どもたちの成長にとって大切である ・栽培の過程で、無農薬なので青虫がついて葉っぱが虫食いだらけになっていた園では「野菜も大事だけど青虫を殺すのはかわいそうだから逃がしたい!」ということになり植物の命も虫の命も両方を大事にする、そんな感性を子どもたちから引き出したことはとても素晴らしい成果である ・更に青虫が葉っぱを食べている様子は子どもたちが大好きな『はらぺこあおむし』の世界にも繋がっていく。絵本の中の話だけではなく袋栽培を行うことでイメージと現実とがリンクしていくので、子どもたちの中で強く印象づけられたことになる ・収穫でハサミを使っていた園の子どもたちは「巧緻性」の発達により刺激になった。収穫となれば生きている植物を切るのその力の入れ具合を知るには実際に栽培する中でハサミを持ってみないと分からない。これも大切な体験活動の成果である ・収穫するとき幾つかの園では足のように二股に分かれた大根やとても細い大根が取れていたが、子どもたちはこうした野菜の形を面白がったり何かに見立てたりどうしてこういう野菜が生まれたのか不思議がったりすることで好奇心の芽が育つことになる ・こうした野菜は「多様性」の理解という点でも子どもたちに優しく示してくれており見た目は違っても中身は同じといった生物の多様性について、ひいては人権教育や障がい者の理解まで繋がっていることを伝えることができる。 <p>○活動をとおして</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の機会にレポートをまとめることで自園と他園の活動の違いが分かるようになる ・これは「保育所における自己評価」と合致するのでとても有効である <ol style="list-style-type: none"> ①自分たちの園の活動をレポートにまとめる ②他園の活動の様子と比較して、良かった点や良くなかった点などの気づきを整理して3～5 行程度に箇条書きしていく ③上記レポートと気づいた点を園内に掲示し保護者に1週間～10日間程度公表する ④公表している掲示の様子を写真で記録しておけば監査の対応としても完璧である

研修会報告レポート③

事業名：保育所保育指針・和歌山市版ガイドブック策定事業

No.03

開催日時	令和4年2月8日（火曜日）14：00～16：00
研修名	令和3年度（第3回）オンライン学習研修会
開催場所	オンライン研修会（配信本部／(有)ビッグウッド集会場）
出席者	<p>■講師；馬場耕一郎 先生（東京よりオンライン出演）監修者講演 米倉れい子 先生（東京よりオンライン出演）基調講演</p> <p>■参加者；民間保育協会、公立保育所含む 計42名／園</p> <p>■事務局；和歌山市民間保育協会職員研修部（冨森先生、大林先生）、幼年機構 飯田</p>
研修テーマ	地域の特性を活かした保育の運用と地域連携について
【研修概要】	<p>4. 事務連絡等</p> <p>○職員研修部からのお知らせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修記録ビデオの閲覧については、講演内容に関するエビデンス、著作権等の事由から6月末迄の期間とする ・次年度の研修会の開催についてはあらためてご案内する <div style="text-align: right;">  <p>（事務局 大林先生）</p> </div> <p>5. 閉会の挨拶</p> <p>○コロナ禍、食材を手にすることが減り惣菜系が増えてきたと思われるが、スーパーなどで親と食材を見て話をするのは子どもの成長と健康にも繋がってくると思われる</p> <p>○次年度もJAから申し出がきているので、また学びと体験の機会に繋がっていただきたい</p> <div style="text-align: right;">  <p>（冨森 研修部長）</p> </div>